

37 大阪工業大学

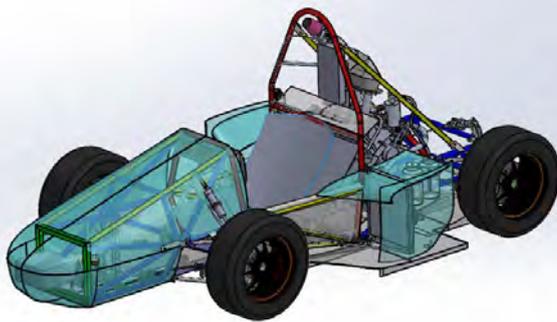
Osaka Institute of Technology

チームレガリア

Team Regalia

<http://oitregalia.web.fc2.com/>

3年ぶりの全種目完走 挑戦へのステップアップ



今回の総合結果・部門賞

- 総合 15位 ●日本自動車工業会会長賞
- ジャンプアップ賞 2位

Profile チーム紹介・今までの活動

我々、大阪工業大学学生フォーミュラSAEプロジェクトは、2007年発足時よりのポリシーである「何より経験を」をもとに全員が設計を行い、全員で製作をしているチームです。今年で8回目の出場となります。今年度のマシンコンセプトは「素直な車両」です。

Team-member チームメンバー

小山 浩史 (CP)

桑原 一成 (FA)、井原 之敏 (FA)、三木 一隆 (FA)
上野 徹、長尾 将幸、上野 仁志、杉本 裕文、塚原 宏彬、前田 擁平、佐藤 彰、加藤 貴大、岡 慎一郎、河野 克哉、澤田 拓未、長瀬 亮成、山下 弘生、森村 亮太、黒木 遥加、末藤 玲奈、今榮 仁志、平尾 拓也、窪田 勝哉、金子 匠、片山 英太郎、山口 友輔、鳥巢 仁、徳永 匠真、畠中 聖称、村上 大夢、地山 貴大、武井 優子、佐竹 航、藤居 幹哉、谷 欽太、田村 豪規、三浦 光貴、古川 慎也、大須賀 睦葵、中辻 万平

Presentation

プレゼンテーション

今年度は細部までいいに製作を行なったため、シェイクダウンは5月のGWに行ないました。しかしウイングの剛性不足やブレーキトラブルが相次いで発生し、すべての問題を解決したのは8月上旬に開催された「3支部合同試走会」でした。

大会では繰り上げて前日車検を受けることができ、大きな問題なく技術車検を通すことができました。その後ドライバーテスト・チルトも順調にクリアしましたが、騒音検査に引っ掛かってしまい、その後ギリギリまで粘りましたが、タイムアウトとなってしまうリタイヤとなりました。

事前の周回走行では前年のRF-011に比べ7~8秒向上しており、目標であった「総合10位」にも届きそうな位置であっただけに、とても悔しいです。

また、私たちが苦手にしてきた静的審査も大きく点数が伸び、静的審査の合計点数では14位を獲得することができました。

来年度はリスクマネジメントを徹底し、更なる上をめざします！

Participation report

参戦レポート

昨年度、新規導入した部品の破損によりエンジンが破損し、リタイヤしてしまいました。そのため今年度は3年ぶりの全種目完走をめざし、新規部品の導入を少なくすることで信頼性を確保しました。

昨年度は、はじめに目標総合順位を設定し、その順位を達成するために必要な各審査でのタイムを算出していました。しかし、目標としていた総合順位 6位以内を達成できず、順位を大きく落としてしまいました。今年度は、はじめに目標総合順位を設定するのではなく、各審査の目標タイムを設定しました。

動的審査のなかでも特にオートクロスに重きを置きました。なぜなら、上位他チームの分析の結果、オートクロスのタイム向上は、上位入賞の条件であり、また、オートクロスからスキッドパッドやアクセルレーションへのアプローチも可能だと考えたからです。そこで、オートクロスのタイムを64秒と設定し、オートクロスの目標タイムを達成できる車両性能から、スキッドパッド5.1秒、アクセルレーション4.3秒を目標タイムと決めました。また、エンデュランスにおいては完走を目指しました。

その結果、目標としていたスキッドパッド・アクセルレーションで昨年の車両を上回る性能のマシンに仕上げることができました。また、エンデュランスを完走することができました。

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、住友電装、デンソー、ホンダテクノフォート、ソリッドワークスジャパン、アルテア、興研、グループエム、シグナルオート 箕面店、ワークスベル、OSG、ゼネテック、日双工業、OZ Japan、U工房、VI-grade、大東ラジエーター工業所、タカタサービス、NANIWA、深井製作所、大阪フォーミング、協和工業、キャスト、日信、プロジェクトM、大阪パネ工業、F.C.C.、水谷製作所、NTN、舞洲インフィニティサーキット、イグス、MCS

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/37.html>